

## 施工の前に

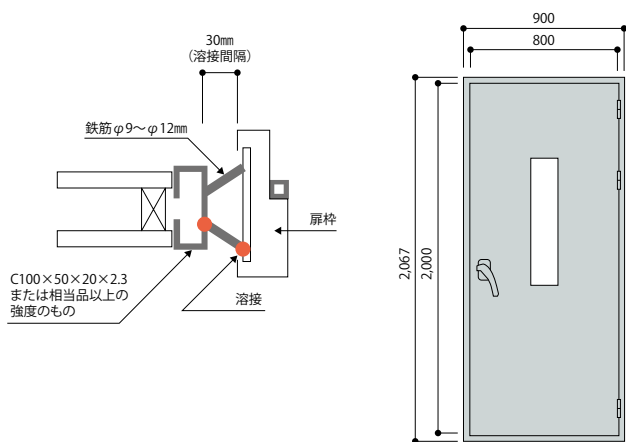
防音ドアは施工の良否によって本来の遮音性能が十分発揮されないケースがあります。遮音性能を十分発揮させるため、以下の点に注意し、正しく安全に取り付けてください。

### ご注意

- 防音ドアは性能確保のため、重量が大変重くなっています。運搬・搬入・取り付けの際は最低2名以上で行なってください。
- 設置箇所の下地躯体は十分な強度を確保してください。開口部（特に下枠）はゆがみ、沈みの出ないように注意してください。
- 枠の水平・垂直など建付を確認してから取り付けてください。遮音性能の低下や開閉の不具合の原因となります。

## 1 開口部の寸法

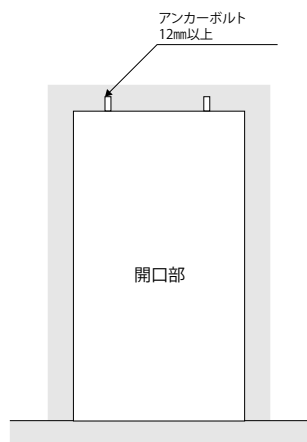
溶接止めの場合は、扉枠外寸法+溶接可能間隔が開口寸法となります。ビス止めの場合は、扉枠外寸法が納まる寸法にて開けてください。（下記参照）  
※ビス止めの場合、上下左右で各1.5mm程度のチリを見てください。



商品名	扉枠外 (w)	扉枠外 (H)	扉枠出幅 (D)	扉本体 (w)	扉本体 (H)	扉本体 (D)	扉重量	扉枠重量
エスブレード (Dr-35)	900	2,067	146	830	2,000	53.2	70kg	30kg
エスブレード (Dr-40)	900	2,067	146	830	2,000	53.2	73kg	35kg
エスブレード (Dr-45)	900	2,067	146	830	2,000	58.8	110kg	35kg
エスブレード II (T-3)	900	2,067	146	830	2,000	53.2	70kg	30kg
エスブレード W (T-3)	1,800	2,067	146	862	2,000	53.2	145kg	50kg
エスブレード W (T-4)	1,800	2,067	146	862	2,000	53.2	150kg	60kg

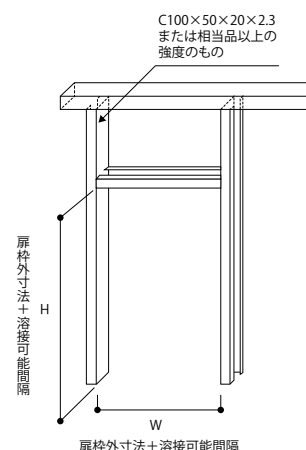
## 2 ドア枠の取り付け

### ●RC下地に開口をあける場合



あらかじめ開口部にアンカーボルトが埋め込まれていなければ、12mmφ以上の溶接アンカーを打ち込んでください。

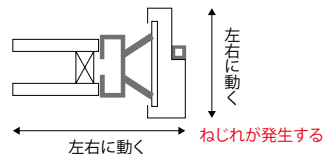
### ●鋼製補強枠を取り付ける場合



C100×50×20×2.3mmまたは相当品以上の強度のものをご使用ください。

### <溶接止めの場合>

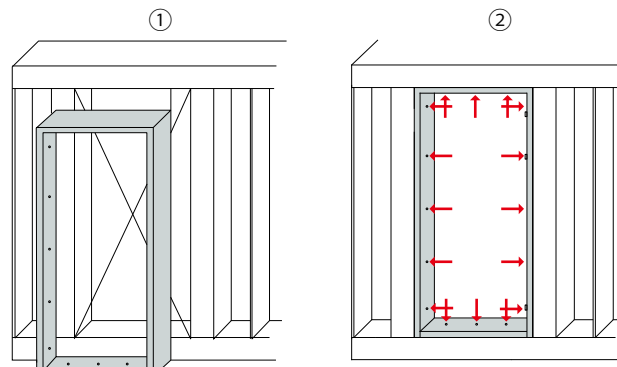
- ①施工の前にドア本体・ドア枠の丁番ビスの増し締め（ハンドドライバーにて）をしてください。左記同等品の鋼製下地を使用し、溶接可能間隔を確保した開口サイズを確保してください。
- ②ドア取付時はドア枠にゆがみが発生することのないように十分な強度を確保してください。右図のようなことがないように注意してください。



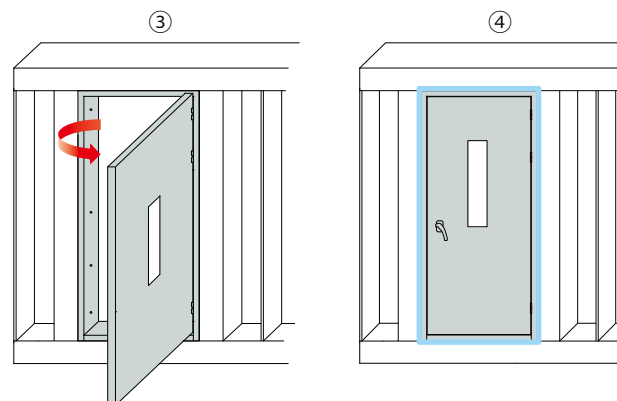
- ③枠取り付け施工の水平・垂直の精度の誤差は1mm以下にしてください。
- ④対角のサイズも確認してください。
- ⑤ドア枠にゆがみ・ねじれ等が生じることがなく、ドア枠が取付用躯体が動かないように固定してください。  
※ドア枠が動くような状態だと、扉・丁番・ドアクローザーの止めビスの緩み等の原因になる場合があります。十分ご注意ください。
- ⑥ドアクローザー・丁番など固定用のビスは必ずハンドドライバーで固定してください。  
※電動工具を使用した場合、ネジ山が破損する恐れがございますので使用しないでください。

### <ビス止めの場合>

- ①施工の前にドア本体・ドア枠の丁番ビスの増し締め（ハンドドライバーにて）をしてください。下地枠に扉の枠をはめ込んでください。  
※木軸の場合、105mm角以上の材で下地枠を組んでください。  
※枠が垂直にはまっているか、ねじれがないかを下げ振り・水準器等で確認してください。  
※下地枠は扉枠外寸法より最低3mm以上（左右上下各1.5mm）の余裕をみて作成してください。  
扉枠を無理に下地枠に押し込むと、扉枠のゆがみ・ドア本体の開閉不良を引き起こす原因になります。
- ②長さ60mm以上のビスで扉枠を下地に固定してください。下地が木製の場合は木ビス、鋼製ならば鉄板ビスを使用してください。  
※きつく締めすぎると枠がへこむ可能性がある場合がございます。
- ③枠取り付け施工の水平・垂直の精度の誤差は1mm以下にしてください。



- ④扉を丁番に差し込み取り付けてください。  
※丁番に差し込む時は必ずゆっくりと差し込んでください。  
急激に落として差し込むと丁番・ビスが破損する可能性があります。  
※扉本体重量が重いので必ず2名以上で取り付けてください。
- ⑤下地と扉枠の間をシリコン系コーキングもしくはモルタルで埋めてください。  
※扉周辺部を施工する前に扉を開閉し、扉と枠が干渉しないかを確認してください。

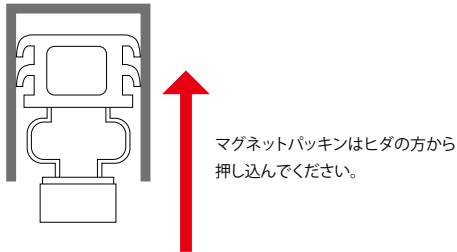


### 3 パッキンの取り付け

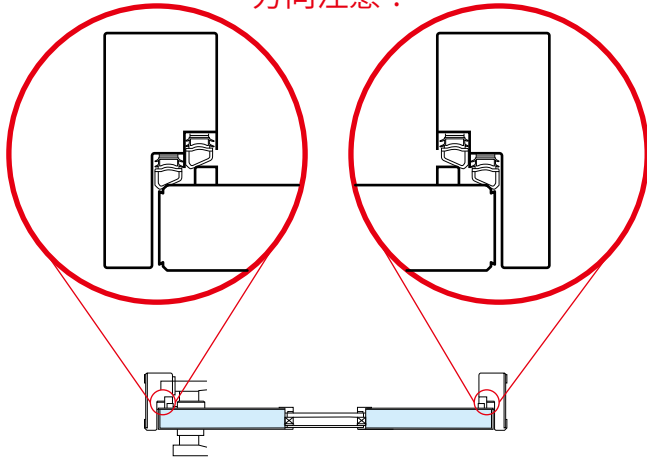
ドア枠にあるパッキン用の溝にパッキンを押し込んで取り付けてください。  
パッキンの取り付けは接着剤などは必要ありません。パッキン側のヒダが見えなくなるまでそのまま『グツ』と押し込んでください。

※パッキンの方向は斜辺が扉本体側に向くように取り付けてください。(下記図面参照)  
(下記図面は2重パッキンの場合ですが、1重パッキンの場合も向きは同じです。)

※パッキンの裏表・方向を間違えると、扉本体にパッキンが当たらなくなり、隙間からの音漏れの原因となります。その場合、本来の遮音性能が発揮できなくなるのでご注意ください。



方向注意!



パッキンは端部が重ならないようにきちんとはめこんでください。



下図のようにパッキンが重なっているとドアを閉めた時に隙間ができ、開閉不良・性能不良につながります。



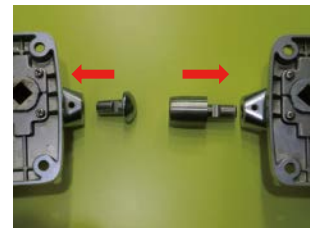
### 4 ハンドルの取り付け(ローラー絞りハンドル)

ハンドルの梱包内容



- ハンドル本体 2本
- ハンドル先端部×2種
- ハンドル受け×1
- 六角レンチ×2種
- 押しさえ金具×2
- イモネジ×2
- 止めビス×4
- ハンドル本体固定用六角頭ネジ×8
- スペーサー×2

ハンドル先端部の取り付け



ハンドルは先端部のローラーとキャップを組み替えることにより左右兼用で使用できます。開き勝手を確認し、先端部品を取り付けてください。



先端部品にあるへこみをビス穴方向(写真では上部)に向けて挿入し、イモネジで固定してください。このへこみ部とイモネジがかみ合っていない場合、先端部脱落の原因となります。



付属の六角レンチにて固定してください。

ハンドル先端部の取り付け



狭い方が上になるように取り付けてください。

※受け金具のビスは必ずしっかりと締めてください。ビスがしっかり締っていないと経年の使用によりビスが緩み、金具がずれることに起因して、ドアの締め具合が緩くなることがあります。